

地域日本語教育のこれまでとこれから —その多様なありようを見つめる—

「進路ガイダンス宮城」12年のあゆみ
—子どもたちの可能性を後押しする“連帯”のかたち—

13:45-15:15

パネリスト：田所希衣子氏、李王寧氏、森野カロリナ氏、陳誠氏、大泉貴広氏、須藤伸子氏（進路ガイダンス宮城実行委員会）

外国から来た子どもと親は、言語や文化の違いから情報を得にくく、中学卒業後の進路を決めることが難しい実態があります。「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス宮城」はそのような親子をサポートしようと、市民が中心となり、2009年に始まりました。これまでの12年間、実行委員会では丁寧に話し合いを重ね、それぞれの立場をこえて、常により良いサポートのあり方を探ってきました。今回は、進路ガイダンス宮城のあゆみを参加者と振り返り、活動で大切にしてきたことや、これからの課題について考えたいと思います。

対話のひろば：授業/教室のあり方を見つめ直してみる

15:25-17:05

講師：鈴木英子氏（（公財）宮城県国際化協会地域日本語教育アドバイザー・東北中国帰国者支援・交流センター日本語講師）

日本語学習者の多様化、現場の多様化など、日本語教育は大きな転換期を迎えています。また今回の新型コロナウィルスで、授業のあり方、教室のあり方に転換を迫られた方も多いのではないのでしょうか。今回は、中国帰国者支援・交流センターの開所から13年、帰国者の日本語教育に携わっていらっしやった鈴木英子氏をお迎えし、お話を伺います。帰国者の皆さんと向き合い、授業のあり方、教室のあり方を問いながら試行錯誤された経緯、そして現在取り組まれている演劇を取り入れた実践についてご紹介いただきます。鈴木氏の語りをもとに、参加者の皆さんにもご自身の実践を振り返り、授業のあり方、教室のあり方を今一度考える時間になりたいと思います。今回も、昨年度同様、参加者どうしで自由に話し合える学びの場づくりを目指します。

日時：2020年12月12日（土）

対象：日本語教育に関わっている方ならどなたでも

申込：ウェブサイトのマイページから詳しくは[こちらをクリック](#)

オンライン開催
参加費500円

※本企画は、日本語教育学会主催の東北支部集会の一部として行われます。
支部集会全体のプログラムはこちらからご覧ください：
<http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/11/2020tohoku1117.pdf>